福島県特別支援教育振興会
いわき支部
会報

第 31 号
発　行　者
福島県特別支援教育振興会
いわき支部長　大　谷　　明
事　務　局
福島県立平支援学校
いわき市平上平窪羽黒40－45
〒970-8001　TEL（0246）24-2501
FAX（0246）23-5135
ホームページ　http://sep-iwaki.com/

コロナ禍やパラリンピックで学んだことを活かそう！

福島県特別支援教育振興会 いわき支部長　大　谷　　明

今年は列島各地で大規模な自然変動があり、人々の生活に深刻な災害が続出しました。また、新型コロナウイルスによって日常活動等に多くの制限が課される毎日となりました。

特に新型コロナウイルスは、オリンピック・パラリンピックをはじめ、政治・経済・教育・文化・スポーツ・日々の暮らし方や付き合い方等に至るまで広く深く深刻な影響を与えています。市中では、「感染食い止め、ＰＣＲ検査、アクリル板で飛沫防止、手指消毒、食事中以外のマスク着用、換気の徹底、会食や外出や旅行の自粛、そして年間における緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の解除等による気のゆるみへの警告、ウイルスからの防御、ワクチン接種の継続、第六波への危惧、更なる新型ウイルスの発生・拡大、空気感染の危機やパンデミックの恐れ」等々の言葉が氾濫し、こんな状況が引き続いている現状と思います。

それらの社会的な対応とともに注目したいのは、東京パラリンピックの評価と、それが特別支援学校に与えた変化です。パラリンピック選手としての参加、障がい者の移動や食事、観戦の制限、オンライン授業の実施、テレビ等での報道の丁寧な姿勢、警備・警察・ボランティア等の関与する方法や障害を有する人々へのノウハウ等が編み出され実施されました。パラリンピック大会への参加と支援の中で、選手の記録・パフォーマンスの発揮や関係者との多くの感動やエピソードが生まれ、選手・国民・家族・仲間・指導者等の方々の心のふれあい、「繋がる」力は「絆」として様々な場面で構築されていました。車いすバスケットやボッチャ競技、誰もが分かりやすいようにと工夫されているテレビでのユニバーサル放送等によって、新しいスポーツの解説・紹介がなされました。

私たち特別支援振興会は、このようなパラリンピックの感動の喜びに浸るだけではいけません。その感動を基に今後の特別支援教育の活動・事業への熱い思いを持って「実践」という形で継続的に支援していきたいと思います。

皆様と一緒に力を尽くしていきたいと考えます。なお現在、オミクロンという新型コロナの変異株の世界的な発生で日本でも要注意状況になっております。やはりまだまだ安心した生活は困難な状況です。皆様には重ねて日々の生活にご注意いただき、今後ともよろしくお願いいたします。

いわき支援学校くぼた校
花が育む高校生と地域の交流支援事業

各学校の紹介

いわき支援学校

本校は、いわき市平上神谷地区に位置し、主に知的障がいのある児童生徒が学ぶ通学制の特別支援学校です。小学部 84 名、中学部 49 名、高等部 86 名の児童生徒が在籍しています。「自ら考え学ぶ人」「心ゆたかな人」「じょうぶな人」の教育目標のもと、また、県が掲げている「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を念頭において、児童生徒一人一人の能力・特性に応じ、自立と社会参加を目指して、授業づくりや学校行事、体験活動の充実に取り組んでいます。また、分校のくぼた校とも連携を図りながら、教育活動を進めています。

本年度も新型コロナウイルスの影響がありましたが、これまで以上に児童生徒が充実した学校生活を過ごせるように、様々な工夫や感染防止対策を行いながら学習活動を行っています。

小・中学部は 10 月 23 日に、風と雲のまつりを行いました。ステージ発表や作業学習製品展示・販売を行いました。小学部は、高学年が「かぜくもオリンピック」中学年が「24 ひきのあきまつり」２学年「みんなできるかな？」１学年「はらぺこあおむし」を発表しました。日々の学習や発表に向けての学習を積み重ね、小学生らしい元気いっぱいの演技を発表することができました。

中学部のステージ発表は、夏のオリンピックのように輝く日本へエールを送るということをテーマに、音楽の授業で取り組んできたことを３グループに分かれて発表しました。「東京音頭」や「千本桜」「花はさく」「荒城の月」や「お祭りマンボ」など、元気になる曲や伝統音楽を器楽演奏や、リズム打ち、身体表現で力強く発表し、最後は中学部全員で「世界がひとつになるまで」の手話による合唱で元気をフロアに届けることができました。また、保護者に向けての作業学習製品販売も行いました。

高等部では、家庭科の保育の授業で、本会で購入していただいた保育・養護実習用教材の新生児抱き人形を使って家庭科の授業を行いました。幼児の発達の学習の中で、新生児抱き人形を使って幼児の重さや扱い方などについて、丁寧に学ぶことができました。生徒たちも実際の大きさの人形を使って学習することで、より真摯に学習に取り組むことができました。

部活動では、ボッチャセットを利用して福島県特別支援学校スポーツ大会の練習に励みました。当日は、団体戦や個人戦に参加し、各校の生徒たちと熱戦を繰り広げました。今後も日々の活動で有効に活用していきたいと思います。

また、本校では進路指導の充実にも努めています。中学部や高等部では、地域の様々な企業や福祉事業所の御協力を得ながら、校外での産業現場等における実習を行い、将来の生活に向け、仕事への考え方や取り組み方、そして地域の方々との共働生活について学んでいます。

今年度も、本会からの助成金は、各学部の教材・教具の充実に活用させていただいています。いわき支部の皆様、本当にありがとうございます。

いわき支援学校くぼた校

いわき支援学校くぼた校（以下、「くぼた校」という）は、県内で初めて高等学校内（勿来高等学校内）に設置された高等部のみの特別支援学校（知的障がい）として開校し、今年度で７年目となりました。福島県が目指す「地域で共に学び共に生きる教育」の推進に向けて、勿来高等学校や地域の皆様からの御協力や御支援をいただきながら、日々の教育活動を行っています。

くぼた校では、10 月９日（土）に福島市のあづま総合運動公園を会場として２年ぶりの開催となった「第 20 回福島県特別支援学校スポーツ大会」に学校行事として参加しました。大会に向けて、１学期末から本格的に練習を始め、各種目に分かれて継続して練習を重ねることで力をつけてきました。大会当日は新型コロナウイルス感染症対策のため様々な制限がかかり、無観客開催、友達への声援を送ることはできませんでしたが、拍手を受けて日頃の練習の成果を発揮することができました。くぼた校は陸上競技での女子ソフトボール投など５種目での優勝、フライングディスク競技の個人アキュラシー５ｍ競技での２名の優勝をはじめとして、両競技を合わせて計 20 種目での入賞を果たしました。また、多くの生徒が自己記録を更新したり、自己ベストに近い結果を残したりすることができました。

今年度は「第 20 回福島県特別支援学校スポーツ大会」に係る大型貸切バスの代金として、本会からの助成金を当てさせていただきました。生徒たちは、この大会のためにこれまで練習を重ねて臨んでいたこともあり、良い思い出となったようです。いわき支部の皆様には、これまでの御協力や御支援に改めて感謝申し上げます。今後とも様々な場面で御支援をいただければと思います。

平支援学校

本校は、平上平窪地区にある、肢体不自由のある児童生徒のための特別支援学校です。現在、小学部 37 名、中学部 23 名、高等部 22 名、計 82 名が在籍し、保護者の送迎や公共交通機関・スクールバス等で自宅から通う児童生徒、寄宿舎を利用して通学する児童生徒、隣接する福島整肢療護園から通学する児童生徒がいます。また、市内小名浜野田にある国立病院機構いわき病院内の「病院訪問学級」や家庭にうかがって授業を行う「家庭訪問学級」など、各々の状況に応じた形態での学習を通して『明るく　正しく　たくましく』の学校目標のもと、個々の能力や特性に応じて、そして卒業後の自立と社会参加に向け、日々学習活動に励んでいます。また、校内において７名の看護師が配置され、経管栄養や痰の吸引等の、医療的ケアの必要な児童生徒が安心して学校生活が送れるよう、安全を徹底しています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、校外へ出かける活動の多くが中止となっていますが、対策を施しながら、また、Web 会議システムを活用し、できる限りの教育活動を行っています。小学部では、よつの葉フェスティバルを学習発表の場として、各学習グループで調べ学習の発表や歌、合奏の発表などを保護者の皆さんに見ていただきました。中学部では、コロナ感染状況等から目的地や活動内容を検討し、会津方面への修学旅行を実施しました。福島県立博物館見学や赤べこ作りを体験しました。高等部では、ふたば未来学園高等学校、いわき支援学校とのリモート交流、作業技能大会や特別支援学校スポーツ大会などへの参加を通して視野を広げていくことを心がけ、直に体験できる機会の減少を補ってきました。

本校では本会からの助成金を災害時備蓄品、学習教材、卒業式装飾の花代に使わせていただきました。安心・安全、充実した学習活動に有意義に使わせていただいております。いわき支部の皆様に感謝申し上げます。

聴覚支援学校平校

本校は、浜通り地区唯一の聴覚障がい特別支援学校です。今年で創立 115 年目を迎えました。平校はいわき市馬目地区にあり、幼稚部と小学部が設置されており、10 月末現在で 10 名（幼稚部４名、小学部６名）の幼児・児童が在籍しています。中学部や高等部は、福島県内では聴覚支援学校（郡山市）にのみ設置されています。

本校は、幼児・児童の学力・言語力、そして生きる力の育成を目指し、ことばの指導の充実を取組の一つに掲げています。幼稚部においては、様々な体験にことばをのせ、心とことばを育み、小学部では考えることを大切にしながら、各教科の力、ことばで伝え合う力、自分で考えて行動する力を育んでいます。また、平校内には、地域支援センター「みみらんど・いわき」があり、きこえやことばに心配のあるお子さんに対する乳幼児教育相談や、保護者・地域の教職員等を対象とした学習会等を行っております。

今年度の活動として、10 月 30 日（土）に、学習発表会「平ふくろう祭」を実施しました。「笑顔で　想いをこめて　一生懸命がんばろう」のテーマのもと、子どもたち一人一人が一生懸命に取り組みました。幼稚部・小学部の劇では、物語を読み、台詞や手話・動きを覚え、観客に伝わるよう登場人物の心情を大切にしながら練習を重ねました。また、音楽発表の合奏やダンスでは、見てくださる方々に感動してもらえる発表ができるよう、授業時間だけでなく、休み時間にも声を掛け合って努力する姿がありました。そして、ふくろう祭当日は、これまでの学習や練習の成果を大いに発表することができました。

今年度は、本会からの助成金を平ふくろう祭の教材・教具や情報教育の充実のために活用させていただきました。ありがとうございました。

温かいご支援をいただき、ありがとうございました。

令和３年度 一般会計歳入歳出予算書

歳入総額　1,308,285 円
歳出総額　1,308,285 円
差引残高　0 円

1　歳入の部　1,308,285円

款	項	目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘　要
会費収入	会費	会費	686,000	675,000	11,000	1,000円×373口、2,000円×24口、3,000円×12口、4,000円×１口、5,000円×29口、10,000円×６口、20,000円×１口
積立金取崩	積立金取崩	積立金取崩	100,000	100,000	0	定額預金10年満期（特別会計から）の自動振替（元金 100,000円）
諸収入			10	50	△ 40	
	預金利子収入	預金利子	10	50	△ 40	ゆうちょ銀行利子
	寄附金	寄附金	0	0	0	
	補助金収入	補助金収入	0	0	0	
	雑収入	雑収入	0	0	0	
繰越金収入	前年度繰越金	前年度繰越金	522,275	416,879	105,396	
合計			1,308,285	1,191,929	116,356	

2　歳出の部　1,308,285円

款	項	目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘　要
会議費	会議費	会議費	7,000	5,000	2,000	支部役員会等お茶代、行政財産の管理経費等
負担金	負担金	負担金	20,000	20,000	0	県特別支援教育振興会支部負担金
補助及び交付金	補助及び交付金	補助及び交付金	1,050,000	950,000	100,000	特別支援教育助成金4校分（振込手数料含む）特別支援学校体育連盟助成金（振込手数料含む）
事務費	事務費		165,000	163,000	2,000	
		旅費	20,000	20,000	0	特別支援教育振興会県総会旅費
		需用費	100,000	100,000	0	封筒・コピー用紙・ラベル代、ドメイン更新費用（振込手数料含む）、福島県特別支援教育振興会いわき支部会報、HP 用レンタルサーバー代（振込手数料含む）
		通信費	35,000	35,000	0	役員会等案内・会報発送切手代、返信用はがき代
		手数料	10,000	8,000	2,000	会費取扱手数料等
積立金	積立金	積立金	0	0	0	
予備費	予備費	予備費	66,285	53,929	12,356	
合計			1,308,285	1,191,929	116,356	

3　差引残高　0 円
4　支部長の承認を得て科目間の流用を認める。
5　特別会計残高　200,000 円

令和３年度 福島県特別支援教育振興会 いわき支部役員名簿

【顧　問】長谷川浩一　青木　稔
諸橋　義隆　渡辺　敬夫
小野　哲司

【支部長】大谷　明

【副支部長】酒井　好雄　矢吹　美良
遠藤　由佳

【監　事】新妻　由美　富岡幸夕里

【理　事】
（平方部）　小野寺典子
（小川・川前方部）　鈴木　茂信
（社団法人いわき市医師会）
（福島県立いわき支援学校）　曽川　孝規
（福島県立いわき支援学校くぼた校）
鈴木　嘉人　馬上　弥生
（福島県立聴覚支援学校平校）
佐藤　浩士
（福島県立平支援学校）
柳沼　哲（事務局長）

GIGAスクール推進活動紹介

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現を目指すため、GIGA スクール構想が打ち出されました。各校での取り組みを紹介します。

いわき支援学校

児童生徒が授業の中で分担して課題を調べたり、調べたことをまとめて共有したりする学習にタブレット端末を活用しています。

平支援学校

入学式、始業式、終業式などの学校行事に家庭訪問・病院訪問学級はリモートで参加しています。

いわき支援学校くぼた校

校外学習に行って見学したことを、班ごとにタブレット端末に記録し、後日、画像の説明を交えながら、分かりやすく発表しました。

聴覚支援学校平校

児童用アカウントを一人ずつ発行し、ジャムボードなどの google アプリを使った学習活動が展開できるようにしました。